

令和 6 年 2 月 20 日 第 3 回消費者教育推進委員会報告資料

奈良国立大学機構（奈良女子大学）

研究院生活環境科学系教授 大塚 浩

大学生と市民が「学び合う」ことで実現する地域・世代を包摂する消費者教育モデル構築の試み - 成年年齢引き下げや社会のデジタル化に伴う啓発／学習活動を通して -

消費者教育における課題

- ① 成年年齢引き下げ・・・若者が消費者被害に遭う危険性 ⇔ 経験豊富な大人のアドバイスが若者の助けになる
- ② 社会のデジタル化・・・児童や高齢者が消費者被害に遭う危険性 ⇔ 情報教育を受けた若者が児童生徒・高齢者の助けになる

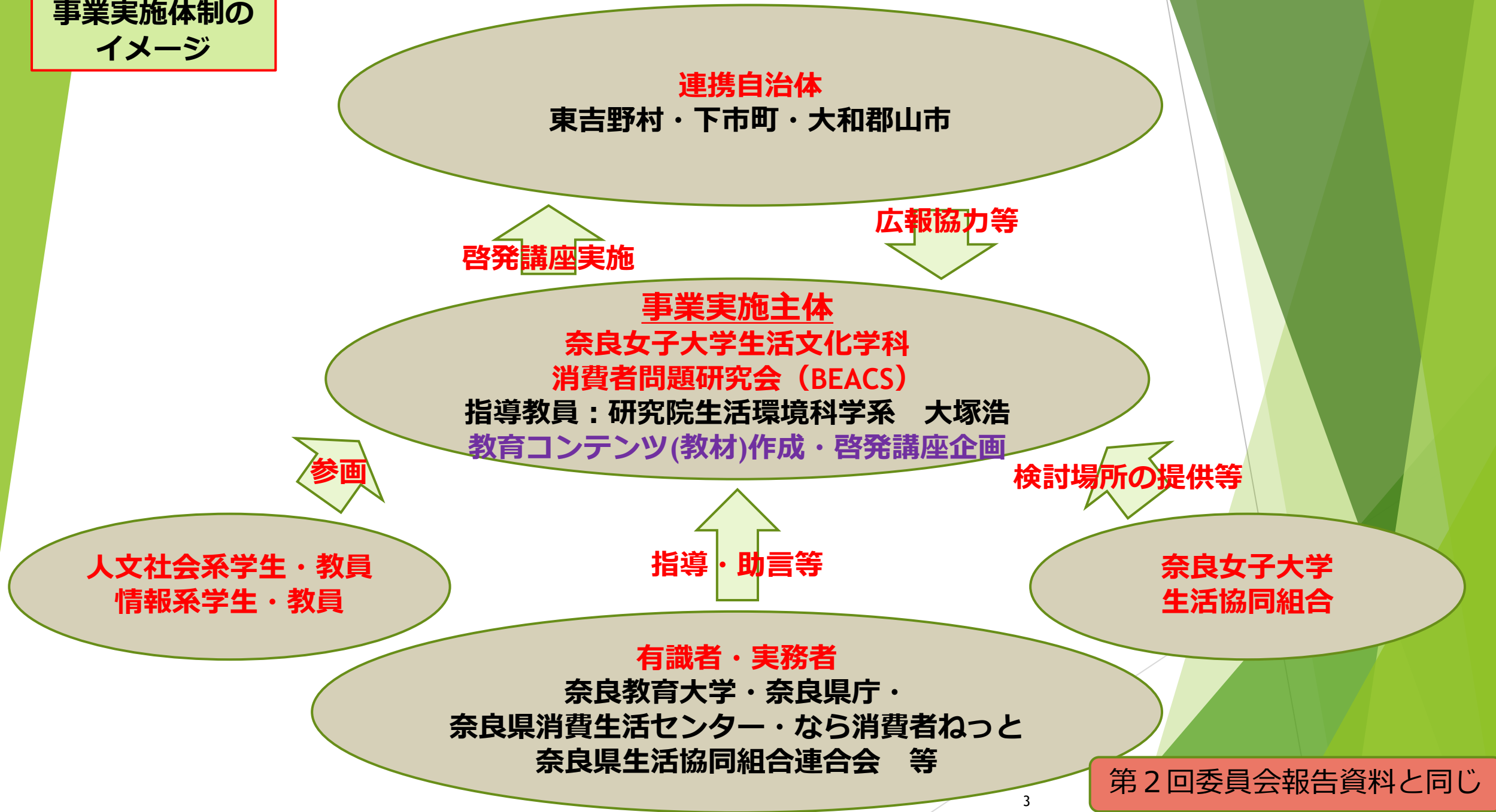
大学生と市民が「学び合う」ことで実現する地域・世代を包摂する消費者教育モデル

⇒ ①②に対して同時に対応できる消費者教育の新しいモデル

- ・ ①②を踏まえた新しい消費者教育教材の開発（奈良女子大学学生を中心に検討）
- ↓
- ・ 新しい消費者教育教材を用いた啓発講座の開講（奈良女子大学学生が県内市町村を訪問）
- ↓
- ・ 啓発講座の結果を踏まえ、消費者教育教材・啓発講座のブラッシュアップ

第2回委員会報告資料と同じ

事業実施体制の
イメージ



吉野郡下市町における啓発講座の実施

- ・ 奈良県吉野郡下市町

奈良県のほぼ中央に位置する町。

人口4,627人 世帯2,306世帯

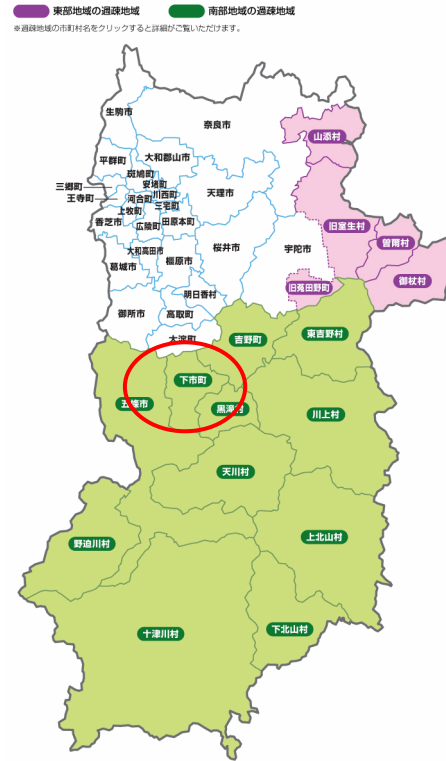
男性2,182人 女性2,445人

[2023年9月1日現在]

林業・農業等が盛んな中山間地域



写真出典：下市町役場HP、Facebook



- ・ ゲームと寸劇 (DVD上映)
- ・ 学生と町民が消費者問題について語る時間を設ける

消費生活に関する勉強会

--奈良女子大学生と一緒に学んでみませんか!--

日時: 令和5年11月23日(木・祝) 10時30分から12時00分
14時00分から15時30分

会場: 下市観光文化センター
(奈良県吉野郡下市町大字下市3071)

備考: 当日は直接会場にお越しください。
午前・午後とも同内容です。

2022年4月に成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。成人になると親の同意を得なくても自分の意思で様々な契約ができるようになります。ただ、責任を伴う契約を行うためには、経験に即した確かな知識が非常に重要です。

一方、社会のデジタル化が急速に進んでいます。そうした中、子どもや高齢者がインターネットトラブル等に巻き込まれる被害が後を絶ちません。トラブル回避には正しい知識が不可欠です。

こうした社会においては個々人の学びに加え、異なる世代が共に学び合い、知識を補い合うことが非常に重要です。

そこで下記のとおり奈良女子大学生と下市町の皆さんとが共に学び合う勉強会を開催することにしました。勉強会においてはお一人お一人の知識や経験が非常に重要な価値を有しています。

ご年齢を問わず、多くの皆さんのご参加を心待ちにしております。



問合せ先: 奈良国立大学機構企画課
Tel 0742-20-3692
hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp

11月23日（木・祝） 下市観光文化センターにおける活動の報告



実施内容：①BEACS作成啓発すごろくの実施 ②消費啓発ビデオの上映（過去に下市町民協力のもと作成したもの）
③交流タイム（すごろく、ビデオの感想の他、下市町での暮らし等についてのフリーディスカッション）

実施結果：○参加者からの評価は良好（こうした企画は高齢者にはありがたい、自分以外の参加者のこれまで知らなかった一面が知れて楽しかった）
クイズの難易度も「ちょうどよい」との評価

△参加者が少なかった（消費啓発だけを前面に出すと、参加に壁を感じてしまう）
→ 実施場所の変更（民間企業が運営する「地域のIT普及を目指した交流施設：下市集学校」等）
※実施後、参加者の方と意見交換の場を設け、ご助言を頂いた。

au Payなど身近になってきているポイントサービスの使い方のレクチャーも有益（広義の情報教育）

大和郡山市における啓発講座の実施

・奈良県大和郡山市

奈良県の北部に位置する町。

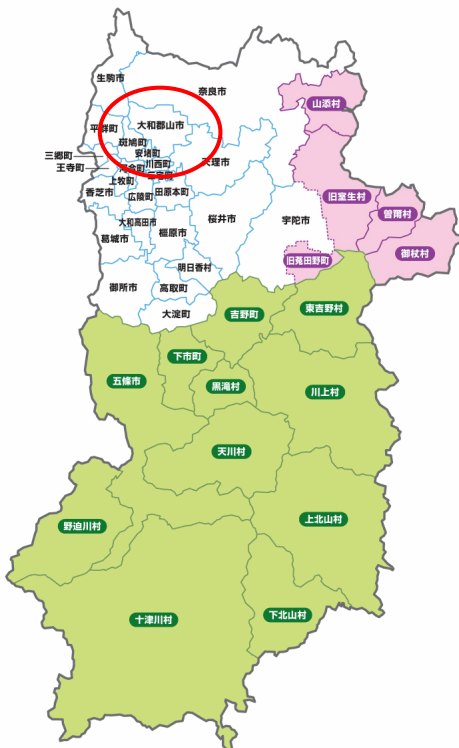
人口83,317人 世帯 39,166世帯

男性 39,405人 女性 43,912人

奈良市や京阪神にも近い都市部

※都市部と農村部との違いも意識

■ 東部地域の過疎地域 ■ 南部地域の過疎地域
※過疎地域の市町村名をクリックすると詳細がご覧いただけます。



大和郡山城跡 (写真出典：奈良県HP)



イオン大和郡山 (写真出典：イオンモールHP)

12月8日(金)、12月15日(金)に
消費生活センター等と連携して
講座実施予定

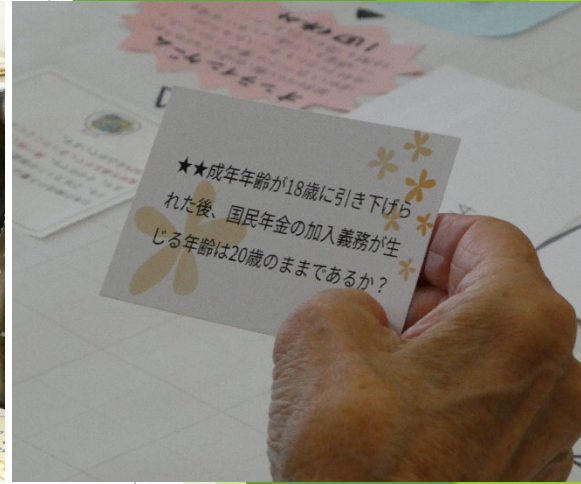
12月8日(金)
市社協主催 高年者教養大学
「正しい消費生活を学ぶ」
(於:大和郡山市老人福祉センター)

→ 学生がクイズで参加

⇒ **学生インフルで実施見送り**

12月15日(金)
「消費生活講座」
(於:大和郡山市南部公民館)
市消費生活センターと共催
→ クイズ、消費者問題について
語り合う交流タイム

12月15日（金）大和郡山市南部公民館における活動の報告



実施内容：①大和郡山市消費生活センターによる講義 ①BEACS作成啓発すごろくの実施
②交流タイム（すごろくの感想の他、大和郡山市での暮らし等についてのフリーディスカッション）

実施結果：○参加者を多く確保でき、賑やか（公民館主催高齢者向け行事に相乗り参加させて頂いた）
公民館活動にも貢献できた（学生と高齢者の交流を通じ、講座内容のマンネリ打破に貢献）

△参加学生の確保（平日だと授業とバッティングする、授業がある学生は参加できない）
急な病欠への代替学生の確保（ゲームを運営できる学生を広範に育成できるか）

1月20日（土）情報系専攻学生との懇談会



- 実施内容：①趣旨説明（消費者問題における情報分野の重要性の高まり、等）
①BEACS作成啓発すごろくの実施
②交流タイム（すごろくの感想、情報を専門に学ぶ学生目線からの改善提案）

実施結果：○大学生や大学院生が取り組んでも学びが得られる教材になっている

- △（2月9日に小学生向けに啓発講座を実施することを踏まえ）
小学生向けにはクイズの差し替えが必要 ※小学生には難しい？

小学生に向けてはオンラインゲームにおける問題点（アカウントの交換の危険性、など）をクイズに取り入れることも一案？



東吉野村における啓発講座の実施

- ・奈良県吉野郡東吉野村

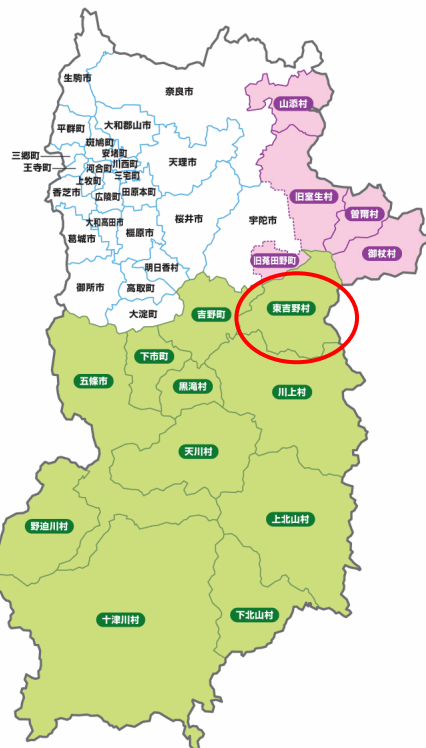
奈良県の東部に位置する村。

人口1,745人 世帯 830世帯

奈良県と三重県の県境

少子高齢が進行した山村

東部地域の過疎地域 南部地域の過疎地域
※過疎地域の市町村名をクリックすると詳細がご覧いただけます。



写真出典：東吉野村HP



写真出典：丹生川上神社HP

2月9日（金）

東吉野村教育委員会協力のもと
東吉野小学校5・6年生を対象に
講座実施（児童数は計9名）

学級数

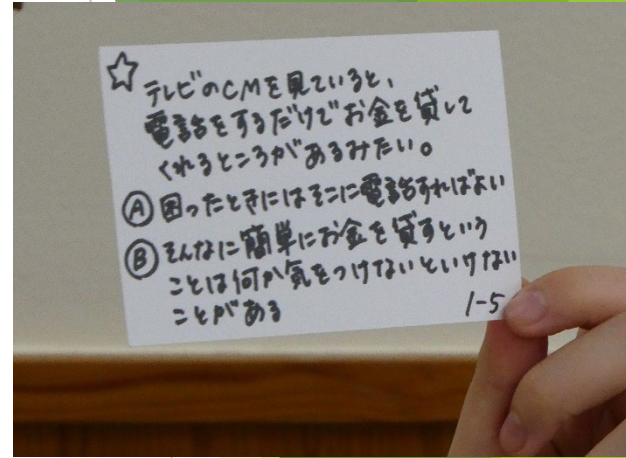
令和5年度 9月1日現在



学年	学級数	児童数
1年	1学級	5名
2年	1学級	5名
3年	1学級	3名
4年	1学級	8名
5年	1学級	2名
6年	1学級	7名
全校		30名

→すごろくを小学生向けに内容変更したうえで実施（難度を下げ、子どもが直面する可能性があるネットトラブルやお金の取引に関するクイズとした）

2月9日（金）東吉野小学校における活動の報告



実施内容：①交流タイム（昼食を一緒に取る） ②BEACS作成啓発すごろくの実施
③振り返り・まとめ

実施結果：○生徒は積極的に参加してくれ、大学生・生徒間、生徒間も活発にコミュニケーションがなされる
生徒からは学びがあったとのコメント有（カロリーゼロとノンカロリーの違いなど）
教員からも「家庭科」の授業とも関連づけながら実施できそうとのコメント有

△学校側で実施するには人手が必要（教員ひとりでまかなうのは困難）
中・高以降ではより実施が難しくなるのでは？
→教員の多忙化、教科横断的な学びにまとまった時間を割く余裕が学校現場に無い
⇒大学生が参加する本事業の意義

事業で確認できた点

○事業の効果

- ・大学生と市民（児童生徒・高齢者）の学び合い、は好評、かつニーズがある
→児童生徒への教育の充実、高齢者のリカレントなどSDGsにも資するインクルーシブな消費者教育モデル
- ・大学生どうしでの学びにも有効 → 新入生（多くの場合、新成人の18歳）と上級生の学び合い
- ・学び（クイズ）を入れ替えれば、汎用的に実施可能

○モデル化に向けての課題

- ・行政との連携の重要性
→インクルーシブな地域社会の構築への貢献、公民館活動の充実にも貢献
- ・行政以外のセクターとの連携も重要
→活力ある民間企業、団体との協働により多くの参加者を集められる。
⇒効率的な事業実施に繋がる。
- ・世代を問わず、デジタル社会における消費者問題への対応が必要
→スマホ、オンラインゲーム、ネットショッピング、等 電子マネーの使い方説明などにもニーズが高い
⇒情報系学生と文化系学生で連携しデジタルデバイスの初歩的な操作方法から
ネットショッピングやSNSのリテラシーを獲得するようなプログラムを考えることも必要か？